

## 報告1 施設の有効的な運営について

### 老朽化施設の今後は？

ちびっこ天国

3年間継続を決定

コミュニティ  
プラザ

有効活用を委員会で検討



秋山委員長から  
提言書を受理

#### ーちび天 指定管理者から協力金を納付ー



酒々井ちびっこ天国の運営については、酒々井ちびっこ天国検討委員会委員長である拓殖大学大学院秋山義継教授から、今後のちびっこ天国の在り方についての提言を本年1月にいただきました。その提言を踏まえて、町として総合的に判断した結果、本年度から3年間セントラルスポーツグループを指定管理者として、ちびっこ天国を運営していくこととし、3月定例議会で承認を得たところです。

施設運営に当たっては、検討委員会からの提言にもありましたように、来場者のニーズに合った施設運営と施設の魅力を高めることにより、増客・増収を図れる施設とするため、一定のリニューアルを行うとともに、指定管理者から町への協力金として、入園料収入から入園者6万人以上の場合は3パーセント、5万人以上6万人未満の場合は2パーセント、5万人未満の場合は1パーセントに相当する額を納付してもらうこととしました。

#### ーコミプラ 高齢化対応・観光面での有効活用へー

酒々井コミュニティプラザについては、昭和62年10月に開館した施設であり、設置後26年が経過し老朽化していることから、今後は、高齢化社会に対応した施設改修に加え、酒々井プレミアム・アウトレットなどの利用客を視野に、観光面でも有効的に活用でき、なおかつ、民間の活力を活用し年間の維持管理費の削減を図ることが可能となるよう、行政学・経営学にも見識のある拓殖大学大学院の秋山教授を始め、7名の委員で組織する酒々井コミュニティプラザ検討委員会を設置し、しすい・ハーブガーデンと一体的に今後の施設の在り方・運営方法について検討していきます。



また、引き続きFM（ファシリティマネジメント）の導入により、公共施設のマネジメントを進めていきます。

## 報告2 酒々井南部地区の状況について

## 酒々井プレミアム・アウトレット 開業から1年

当初予想  
350万人  
を上回り

来場者

600万人超え



## —酒々井ICは1日6千400台の通行—

昨年4月10日に、開通した酒々井インターチェンジの通行量は、2月末（325日）までの間では約208万台、1日当たり約6千400台の通行があったとネクスコ東日本から聞いております。

次に、三菱地所・サイモン株式会社の運営する「酒々井プレミアム・アウトレット」の来場者（レジ通過者数）は、開業から3月末までの約1年間（347日）で当初の予想の約350万人を大幅に上回る、約609万人が訪れ、その内県内からが7割を占めており、成田空港から車で約10分という立地から台湾や中国、タイなどのアジア系観光客を中心に、外国人客は開業から2月末までで約4万4千人が訪れていると聞いております。

## —来春 アウトレットは約70店舗増床—

来年の春には順調な運営状況を踏まえて約70店舗の増床計画も発表されています。

次に、京成JR酒々井駅利用者（乗降客）は、3月末まで総来場者の約5パーセントの約30万人であったとちばグリーンバスから聞いており、交通渋滞については、年末・年始で多少渋滞が発生したものの、平日では、交通渋滞は発生していない状況です。

## —コミュニケーションセンターには8万2千人—

また、プレミアム・アウトレットの集客効果を活かすため、町の観光物産等を広く展示紹介する情報発信コーナーを設け、町のイメージアップと中心市街地への誘客を図ることを目的にフードコート内に設置した「酒々井コミュニケーションセンター」には、開業から3月末の間では、8万2千695人（約230人/日）の来場者が訪れ、町内の特産品・観光スポット・飲食店などの問い合わせが数多くありました。

町内への誘客の状況では、酒々井まがり家では、昨年4月から3月末の状況で、2万2千358人で対前年比約44パーセント、6千904人の増加があり、商工会からは飲食店等については、お客様が増えているとの声もあると聞いております。

特に町が管理しています「しすい・ハーブガーデン」の来園者数は、昨年4月から11月末の開園期間で1万3千45人、対前年比約29パーセント、2千958人の増加がありました。

アウトレット効果は、徐々に現れてくるものと期待を込めていますが、今後も「酒々井コミュニケーションセンター」の活用や町ホームページにより積極的な情報発信に努め、町の活性化につなげていきたいと考えております。

また、「酒々井町じゃらん」の外国語版の増刷については、成田国際空港と共生・共栄を図るために空港内のロビーに掲示するなど、更に誘客を図っていきます。



**報告3 小中学校の教育環境整備について**

- 学校施設耐震化
- 教室エアコン設置
- 太陽光発電設備

**教育環境の整備を進めてきました**

すべて整備されているのは酒々井町だけ!



町では、児童・生徒が安全で快適な教育を受けられるよう教育環境の整備・充実を図っており、平成22年度東日本大震災発災前に小・中学校校舎の耐震補強工事を終了し、平成24年度に普通教室及び特別教室へエアコンを設置、さらに平成25年度にはエコスクール化のため再生可能エネルギーである太陽光発電設備を各学校に整備したところです。



この三つの事業が、公立小・中学校のすべてにそろって完了しているのは、千葉県下で酒々井町だけです。



**—太陽光発電で電気消費量の約3割を発電—**

本年3月末に完了し、4月から運用を開始した小・中学校の太陽光発電設備の運用状況について、4月・5月の発電量は、(右図参照) 4月合計14,424.52キロワットアワー、5月合計15,210.84キロワットアワー(+786.32kwh)となっています。

酒々井小学校	4月	3,189.21kwh
	5月	3,303.34kwh
大室台小学校	4月	3,462.89kwh
	5月	3,667.13kwh
酒々井中学校	4月	7,772.42kwh
	5月	8,240.37kwh

これは、各学校の電気消費量の約3割に当たる発電量となります。

**—余剰電力の売電は、5・6万円/月程度—**

また、学校が休みによる余剰電力の売電については、(右図参照) 4月の合計1,398キロワットアワー、金額にして52,844円、5月の合計1,611キロワットアワー、(+213kwh) 金額にして62,634円(+9,790円)、でした。

酒々井小学校	4月	384kwh
	5月	342kwh
大室台小学校	4月	530kwh
	5月	478kwh
酒々井中学校	4月	484kwh
	5月	791kwh

これからも、児童・生徒の学習環境の整備については、最優先の課題ととらえ一歩ずつではありますが着実に進めていきます。

